2. 赤松秀雄先生のご逝去を悼む

会長　古　浜　庄　一

元本会々長赤松秀雄先生には去る１月８日鎌倉市内の病院で急逝され，１月１２日に北鎌倉の浄智寺で告別式が多数の方々のご参列のもとに行なわれました。当協会の名で生花を献上させていただきましたのでご報告致します。先生のご冥福を皆様とともにお祈り致したいと存じます。

なお，赤松先生とともに長く本会のために尽力され，ご親交の厚かった前会長太田時男先生から赤松先生をおしのびするお言葉をいただくことができましたので本誌で皆様にお伝え致します。

赤松先生の死を悼む

前会長　太　田　時　男

横浜国立大学工学部長

水素エネルギー協会を生み，育てた親であり，恩人である赤松秀雄東大名誉は去る１月８日夕刻，脳こうそくのため鎌倉市内の病院で逝去されました。昨年の１２月２７日に喜寿のお祝いを了えられたばかりで，少なくともあと１０年は生きて，私達のご指導，ご鞭撻をお願い申し上げたいと念じていたのに，まことに残念で，痛恨の限りです。

水素エネルギー協会の会長が太田から古浜教授へ引継がれたことのご挨拶を兼ね，お見舞（かねてパーキンソン氏病を患っておられた）に古浜さんをお誘いして，昨年の１０月１１日，赤松邸に先生をお訪ね，親しく言葉を交すことのできたのが，せめてもの慰みとなった。例年，いたゞく年賀状は何時も，先生が筆を執られて，ご自分で叮寧にお書きになられるが，今年頂戴したのが最後のものとなった。不自由なお手で筆を運ばれた真心を思うと感涙を禁じ得ない。

水素エネルギー協会には昭和４８年９月１日の会の誕生に際し，神田英蔵会長を助け，副会長として会の方針に大きな寄与をされ，また，幹事長として働いた小生を直接指揮された。その後，第２期（昭５０・４・１～５２・３・３１），第４期（昭５３・４・１～５５・３・３１）及び第５期（昭５５・４・１～５７・３・３１）には会長として，副会長であった筆者とコンビで，水素エネルギー思想の普及や開発促進のため尽力された。

とりわけ，昭和５０年７月２０～２３日の間に，世界の水素エネルギーのパイオニアー達を集めた日米共同ゼミナール「Key Technologies for Hydrogen Energy Systems」を学術振興会の主催で開いた時，コーディネーターとして働いた筆者を積極的に指導された先生の姿が瞼に焼付いている。また，昭和５５年６月２３～２６日の間に，3rd WHEC会議を，世界中から５５０名を集め，京王プラザホ

故　赤松秀雄先生　（昭和58年8月3日）

テルで開いた時も，名誉議長として議長の筆者に適切なアドバイスをされた。然し，今から思うとその頃から先生のパーキンソン病が，やや重くなられ，奥さまの康江さんが何かの用事で暫時お傍を離れられた時，「康江，康江」とひどくお探しになられた情景が思い出される。

昭和４７年に筆者が「水素エネルギー」の概念を，あちこちの雑誌やＴＶなどで発表し始めた時，丁度４６年から教授として横浜国大に着任なさっておられた先生は，いち早く対応され，「太田さん，人類はこれまで炭素の混じらない燃料を利用したことはない。水素だけ燃やすというのは燃料の革命だね」と言われた。筆者がＨＥＳＳ結成の動きを始めると，茅誠司，伏見康治の両先生ともども積極的にバックアップして下さった。

「太田さんとは万才コンビだね」とよく言われたが，１部の化学界の重鎮から，「水素」に傾倒されることで皮肉めいたことを言われていた様子であったが，信念を曲げられない人柄に筆者はすっかり信頼したものである。

写真は昭和５８年８月３日，新宿駅のマイシティにあるフランス料理店で，赤松先生を囲んで，「エネルギー」についての座談会を開いた時のものである。この時出席された先生方の中で，赤松先生と高橋秀俊先生のお二人が他界されたことになる。

先生は明治４３年１２月２７日，佐世保市で生れられ，小年期は鎌倉で過され，八高，東大を卒業の後，昭和２６年東大教授（化学）に就任された。有機半導体や炭素の研究は著名であり，昭和４０年，井口洋夫氏（先生の高弟）と共に学士院賞を受賞された。昭和４６年に東大退官後，横浜国大教授，４９年から一ケ年工学部長をお務めになられ，昭和５０年から分子科学研究所に長として活躍され，５６年退官された。この間，日本化学会々長（昭和４９年）など学会の要職をも務められた。

１月１１日の夜は北鎌倉の浄智寺で，お棺を囲むお通夜が，１２日は晴れて雲一点なき小春の日和，お別れの葬儀が行われた。本協会から古浜会長が参列された。

本協会としては心の支えの一つを失ったような打撃であるが，先生の意志を受け継ぎ，協力して，初志貫徹に尽したいと思う。

それが，ご冥福を祈っての，最良の実践ではないだろうか。

（昭６３・１・１７）